

古くない・ 珍しくないけど4億年

「博物館って、古いもの・珍しいものを集めて飾っているんじゃない？」

そんなふうに思っていないませんか？

いえいえ、それだけじゃありません。博物館（砂丘の風資料館も、れつきとした博物館です）は、ありふれたものや身近なものの中に、生命や地球、人間を発見する場所でもあるのです。

スーパーの鮮魚コーナーをのぞくと、頭や胸びれだけのパックが安く売っていることがあります。出汁などに使う「カマ」や「アラ」です。もしタイのカマが売っていたら、ぜひ買ってみてください。200円も出せば2、3匹分の胸びれが入ったものが買えます。

夕食に鯛出汁の鍋を食べ終わったら、残ったカマから骨をきれいにほじくり出してみましよう。小さな魚骨が出てくるでしょう？ これは「鯛の鯛」（図1）です。昔から縁起物とされ、財布に入れておくとお金がたまるなどと言われてきました。もちろん、タイの中にも一匹の小さいタイが入っているわけではありません。たまたま魚に見える形をしているだけです。

この骨を持っているのはタイだけではありません。石狩で「魚」といえばサケですが、サケにも「鮭の鮭」

（図2）と言える骨があるし、鮭の鮭の鮭の鮭もあるのです。

この骨、実は肩甲骨と烏口骨という骨。人間でいえば肩の骨（図3）にあたります。人間もタイもサケも同じ脊椎動物の仲間、先祖は共通の魚類。進化によって両者が枝分かれしたのは、今からおよそ4億年前のことです。魚類の胸びれと腹びれの4本が発達して手足のようになったグループが出現し、およそ3億6千万年前には、陸上でも生活できるように進化しました。この肩甲骨はその



図1 鯛の鯛（タイの肩甲骨と烏口骨）



図2 “鮭の鮭”



図3 人間の肩甲骨

後も形を少しずつ変えながら、カエル・トカゲ・恐竜・鳥と全ての四足動物の肩に潜み続けているのです。

サケやフライドチキンなど、身近な食べ物の骨から製作した「おかず骨格標本」は、砂丘の風資料館で展示していて、脊椎動物の進化を示しています。文化財や天然記念物だけが博物館じゃない。古くない、珍しくないけど、夕食の魚の骨にも4億年の生命の歴史が隠れているのです。

（志賀健司）

石狩市学芸員
志賀健司 Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物理学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究している。

関文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館